三宅町
みやぼうプロジェクト会議
活動報告書

目　次

開催の趣旨..... 1
第１回　地域福祉って？..... 4
第２回　第１期計画の検証・評価 PART１..... 8
　基本目標Ⅰ　みんなが『関心をもつ』きっかけがあるまち..... 9
　基本目標Ⅱ　みんながいきいきと『活躍できる』まち..... 13
第３回　第１期計画の検証・評価 PART２..... 17
　基本目標Ⅲ　みんなが『つながる』『支え合う』まち..... 17
　基本目標Ⅳ　みんなに『届く』安心・安全なまち..... 23
結果の総括..... 27
　１　グループワークの内容の総括..... 27
　２　川中先生の講評（第３回会議）..... 29

令和６年３月
三宅町

開催の趣旨

　みやぼうプロジェクト会議は、令和２年３月に策定され、令和６年度で終了となる「第１期三宅町地域福祉計画・地域福祉活動計画」の検証評価を行うため、ワークショップ方式で３回にわたり実施しました。
　ワークショップは４名ずつの４グループに分かれ、参加者一人ひとりが施策項目ごとにカードを記入し、内容を共有するためグループ内で話し合うという方式で実施しました。
　司会進行は、アドバイザーの龍谷大学社会学部現代福祉学科准教授の川中大輔先生にお願いしました。

川中大輔先生

会議の工程

	開催日時・場所	テーマ	内　容
１	令和５年 12 月９日 午後２～４時 三宅町文化ホール	地域福祉って？	・自己紹介 ・地域福祉とは？ ・地域福祉計画・地域福祉活動計画とは？ ・プロジェクト会議の進め方について ・第１期計画の庁内検証・評価の報告
２	令和６年１月 28 日 午後２～４時 三宅町文化ホール	第１期計画の 検証・評価 Part１	・第１期計画の基本目標Ⅰ「みんなが『関心をもつ』きっかけがあるまち」及び基本目標Ⅱ「みんながいきいきと『活躍できる』まち」について、検証・評価を行う
３	令和６年３月２日 午後２～４時 保健福祉施設あざさ苑内会議室	第１期計画の 検証・評価 Part２	・第１期計画の基本目標Ⅲ「みんなが『つながる』『支え合う』まち」及び基本目標Ⅳ「みんなに『届く』安心・安全なまち」について、検証・評価を行う

参加者一覧（順不同）

所属等	氏名
アドバイザー（龍谷大学社会学部准教授）	川中　大輔
三宅町議会	森内　哲也
三宅町民生児童委員協議会	西口　久美子
三宅町自治会長会	寺田　良清
三宅町老人クラブ連合会	田上　靖洋
三宅町婦人会	寺田　豊子
三宅幼児園保護者会	中川　里美
三宅小学校ＰＴＡ	水口　和哉
式下中学校ＰＴＡ	池田　真由子
式下中学校ＰＴＡ	森田　多恵子
三宅幼児園	大濱　幸枝
三宅小学校	森本　智士
式下中学校	中本　克広
三宅町ボランティア連絡協議会	植村　照子
三宅町社会教育委員会議	橋本　幹夫
社会福祉法人ひまわり	喜多　学志
三宅町社会福祉協議会	今中　弘一
三宅町社会福祉協議会	下谷　嵩之
三宅町役場　保険医療課	渡邉　愛子
三宅町役場　健康子ども課	松本　理恵

第1期計画の施策体系（計画書P31）

【基本目標】	【基本施策】
Ⅰ みんなが「関心をもつ」きっかけがあるまち	① 啓発・広報活動の推進 ② 福祉教育・学習の推進
Ⅱ みんながいきいきと「活躍できる」まち	① 地域福祉を推進する人材の育成・支援 ② 福祉・介護人材の確保・定着
Ⅲ みんなが「つながる」「支え合う」まち	① 集い、つながる場の整備と活用 ② 見守り、支え合う関係づくり ③ 地域福祉を支える関係機関や団体との連携 ④ 全庁的な体制の整備
Ⅳ みんなに「届く」安心・安全なまち	① 情報提供の充実 ② 包括的な相談・支援体制の充実 ③ 地域生活を支えるサービスの充実 ④ 分野横断的な支援体制づくり ⑤ 権利擁護の推進 ⑥ すべての人にやさしい福祉のまちづくり

第１回　地域福祉って？

第１回会議は「地域福祉って？」をテーマに実施しました。グループ内で自己紹介を行った後、アドバイザーの川中大輔先生より地域福祉に関する小講義を行っていただきました。

その後、事務局より「第１期三宅町地域福祉計画・地域福祉活動計画」の検証評価結果の報告を行い、それに対する質疑応答を行いました。

第１回会議の様子

１　川中先生の小講義の要旨

地域には様々な課題があり、それに関わる地域に根ざした住民の活動がある。

一方、福祉にも福祉的な課題があり、介護保険サービスなど、「制度化された福祉サービス」がある。ところがヤングケアラーなどの例のように、制度には限界がある。線引きがされて漏れてしまうので、「テーマに特化した福祉的な市民活動」で補完している。

「小地域福祉活動」は、そうした「地域の動き」と「福祉の動き」の間に位置するもので、自治会など地域に根ざした住民の活動の中でテーマに沿った福祉活動を行うことであるが、今回、地域福祉計画の評価を行うために、もう少し細かくみていく必要がある。

例えば、「制度化された福祉サービス」の多くは、地域住民とは隔離されている。デイサービスセンターなどが地域住民を巻き込んでサービスを行うことはあまりない。

また、「制度化された福祉サービス」が「コミュニティケア」として地域に関わっていくことはよいことだが、地域住民の側も、もろ手をあげて歓迎するわけでもない。犯罪者やアルコール依存の人とは関わりたくないのが本音である。そういう現実の中で、どうやって「福祉文化」のようなものを創っていくか、が地域福祉の一つの課題である。

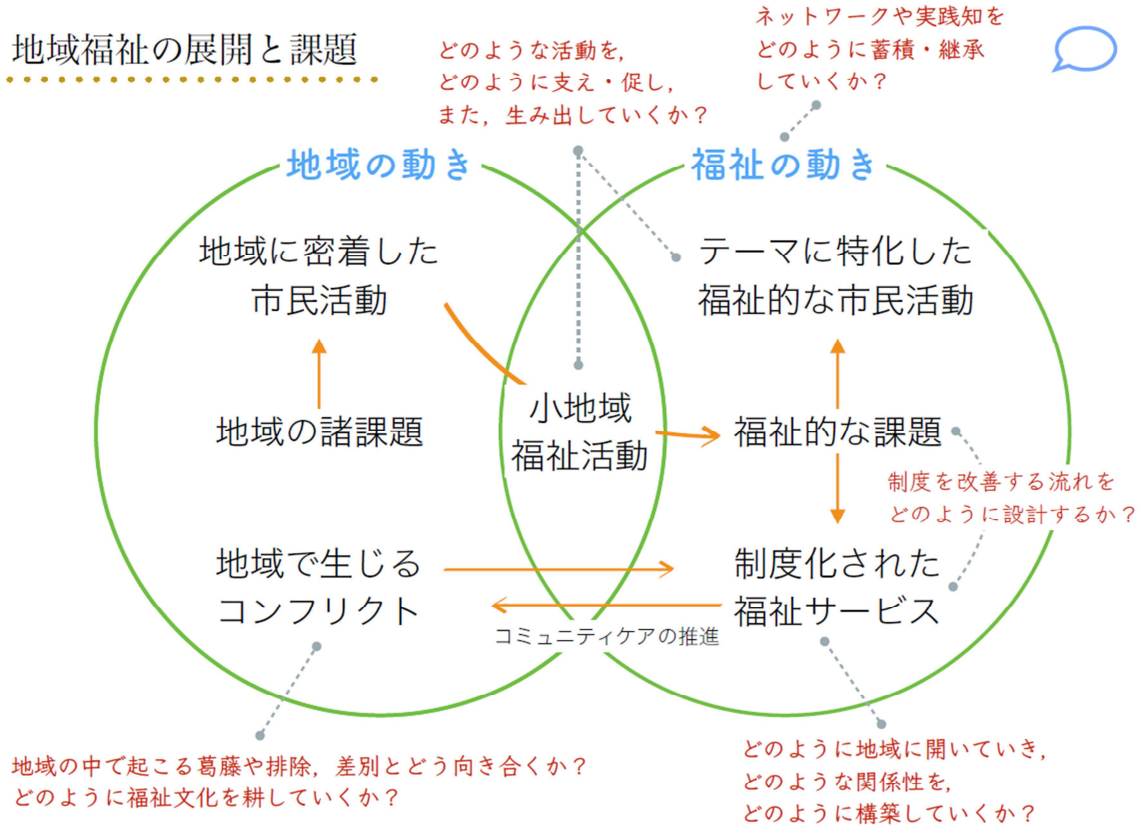
さらに、「小地域福祉活動」というと聞こえはいいが、実際に活動を続けていくのは大変、という話もある。支援が不可欠であり、どういった支援をしていくか、も考えていく必要がある。また、「福祉的な市民活動」や「小地域福祉活動」は、往々にして「特定の人に頼る活動」になりやすい。

そのほか、「制度化された福祉サービス」は融通がきかない。改善しないといけない。それを地域としてリードしていくことも重要。

今回の「みやぼうプロジェクト会議」では、地域福祉計画の評価を行うわけだが、評価のアプローチには２つの方法がある。１つは、ここまでできたが、それをもっとよくするにはどうしたらいいかという帰納的な「ギャップアプローチ」。もう１つは、三宅町にはこんな可能性がある、もっと三宅ではこれができるやろう、という演繹的な「ポジティブアプローチ」。この両方の方法が使ってグループワークを進めてほしい。

川中先生のレジュメ

地域福祉の展開と課題



作成：川中大輔（2018年），参考文献：平野隆之・原田正樹（2014）『地域福祉の展開［改訂版］』放送大学教育振興会

実践する活動をつくりだす2つのアプローチ

ギャップアプローチ
（問題解決アプローチ）

差し迫ったニーズ
問題意識
↓
原因究明
↓
現状分析と
実行可能な解決策の検討
↓
計画立案
（対応策）

問題を解決することに力点

ポジティブアプローチ
（AIアプローチ）

組織や地域が持つ潜在力を認識し，
最大限に評価する
↓
潜在力が発揮された状態の
ビジョンを明確にする
↓
ビジョンを実現する
方法について対話を行う

未知の潜在力を信じることに力点

作成：川中大輔（2023年），参考文献：クーパーライダー,デビッド・L.,ウィットニー,ダイアナ.（2006）『AI「最高の瞬間」を引きだす組織開発』PHP，p.40

２　自己紹介

Ａ～Ｄ班に分かれ、以下のテーマについてグループ内で自己紹介を行いました。

①　名前
②　最近あった嬉しい・楽しいできごと
③　ご所属とそこで行っている活動や業務
④　地域福祉と聞いて思い浮かぶイメージ

３　町・町社会福祉協議会による第１期計画の推進状況報告書に関する説明

三宅町住民福祉課では、関係課・町社会福祉協議会に調査票調査とヒアリングを行い、令和５年 11 月に、「三宅町地域福祉計画・地域福祉活動計画の推進状況に関する報告書」をとりまとめています。いわば、行政側による第１期計画の検証・評価です。

住民福祉課及び町社会福祉協議会から参加者に対し、その概要を報告しました。

４　第１期計画の推進状況報告書に対する質疑

「三宅町地域福祉計画・地域福祉活動計画の推進状況に関する報告書」の内容について、以下のような質疑がありました。

質問・意見その１：ボランティア活動スタッフが増加している点について、増加の原因が何か分かるのか。どのような年代が増えているのか。

事務局回答：ボランティアの増加について、コロナによって活動自粛ということが多く、サロン等の団体を休止されている団体が多かった中で、困っている方、収入の減少や、学校の休校による子育ての課題がある中で、新たに立ち上がった団体が何個かあると感じている。

訪問活動で傾聴ボランティアや子ども食堂など、そういう活動団体がコロナ禍に２～３団体立ち上がった。また今年コロナが５類になり、また新規の活動を始めたいということで、３団体ほど登録されているという状況で、大きく人数が増えたと感じている。

質問・意見その２：報告書７ページ 23、もしくは 12 ページ 55 にある「子育て共助シェアリング活用推進事業」の内容について詳しく知りたい。世代間でマッチングが上手くいっていたのかどうかなど。マッチングの事業は必要だと思うが上手くいくにはどうしたらいいか話し合いたい。

事務局回答：「子育て共助シェアリング活用推進事業」は、子育てコミュニティ形成サポーター、マッチング事業ということで、子育ての支援を受けたい人と支援したい人のマッチングをしていく事業。その中で、買い物支援のマッチングがある。そのあたりのマッチングの件については、また、担当部署に確認して報告させていただく。

〔後日の担当部署への確認内容〕

世代間のマッチングについては、初年度は登録者を増やし、登録者同士・シェアコンシェルジュが顔見知りになるために、定期的に交流イベントを開催していました。その中でも、コミュニティリーダーの集まり（月例会）から「シニア向け説明会の開催」「シニアのアプリ利用お手伝い隊」など、様々な世代のつながりをつくる交流会を実施して、世代間のマッチングを行いました。また、マッチング事業がうまくいくには、アプリの登録はしたものの、そこから情報発信したり、情報を得るするということまで活用できる方は少なく、スマホを使用しないシニア層のコミュニティをつなぐためには、デジタルとアナログと併行する必要があると考えます。

質問・意見その３：報告書の２ページ、評価項目４「みやぼうミーティングの開催」が実際はなかった。実績のところで、みやぼうミーティングはできていないが、ＭｉｉＭｏの運営会議はしているとあるが、会議の趣旨自体は違うんじゃないか。実際、みやぼうミーティングは、いろんな福祉関連団体が集まって話し合って、今後の計画を作るうえでも大事なので、実施される見通しがあるのか。
事務局回答：コロナ禍もあり、実際にはみやぼうミーティングはできていない状況。今後、福祉保健医療等の関係機関や、町内の関連団体を合わせて開催していきたい。地域福祉計画には四半期に１回としているが、その辺も調整しながら、回数は年に１回というような形になるかもしれない。またご意見をいただいて開催に向けて準備したい。

質問・意見その４：17 ページの災害ボランティアは良い取り組みだが、なかなか周知されていない。皆さんに PR していけば理解していただけるんではないか。もう少しわかりやすく三宅町の皆さんにわかっていただけるような啓発をしていただけたら。

〔後日整理した災害ボランティアの啓発に関する町の考え方〕
　国でも、有識者会議である「防災教育・周知啓発ワーキンググループ 災害ボランティアチーム」が令和３年に提言書を出しており、そこに示されたノウハウなども検討し、わかりやすい周知を行い、参加促進を図るとともに、スキルアップを図っていきます。

質問・意見その５：災害時の水位が電柱に書いてあるが、現状にある電柱の水位が違うというふうに言われて、どのようにして水位が決まっているのか。
事務局回答：電柱の取り付けるところの加減だと思うが、担当部署に確認する。

〔後日の担当部署への確認内容〕
　災害時水位の電柱貼付箇所ですが、見やすい位置、目線の高さなどのところに取り付けられているが、いい場所に貼れなく、高い位置や低い位置に取り付けられたものもある。そのため、それとは別に赤のラインで印をしており、その赤のラインが災害時水位の高さになる。

質問・意見その６：８ページ、災害時の要配慮者に関する情報について、保険医療課、住民福祉課、健康子ども課に関する情報を総務課で災害時に一元的に把握するというふうにここには書かれているが、個人情報のことはあると思うが、やっぱり地域でその情報を共有することをできないと、何かあったときに、近所の方のことを知らないために、命を危険にさらすということもあると思う。そういう情報はあらかじめいただけないのか。
事務局回答：要配慮者の情報共有について、防災担当の総務課から各課にリスト化したものを要請しているところ。
　地域への共有については、１人暮らしされている方については、民生委員に情報提供をさせていただいているところではあるが、やはり個人情報というところもあり、なかなか希望される団体全てにというのは難しい。可能なところで努力したい。

第２回　第１期計画の検証・評価Part１

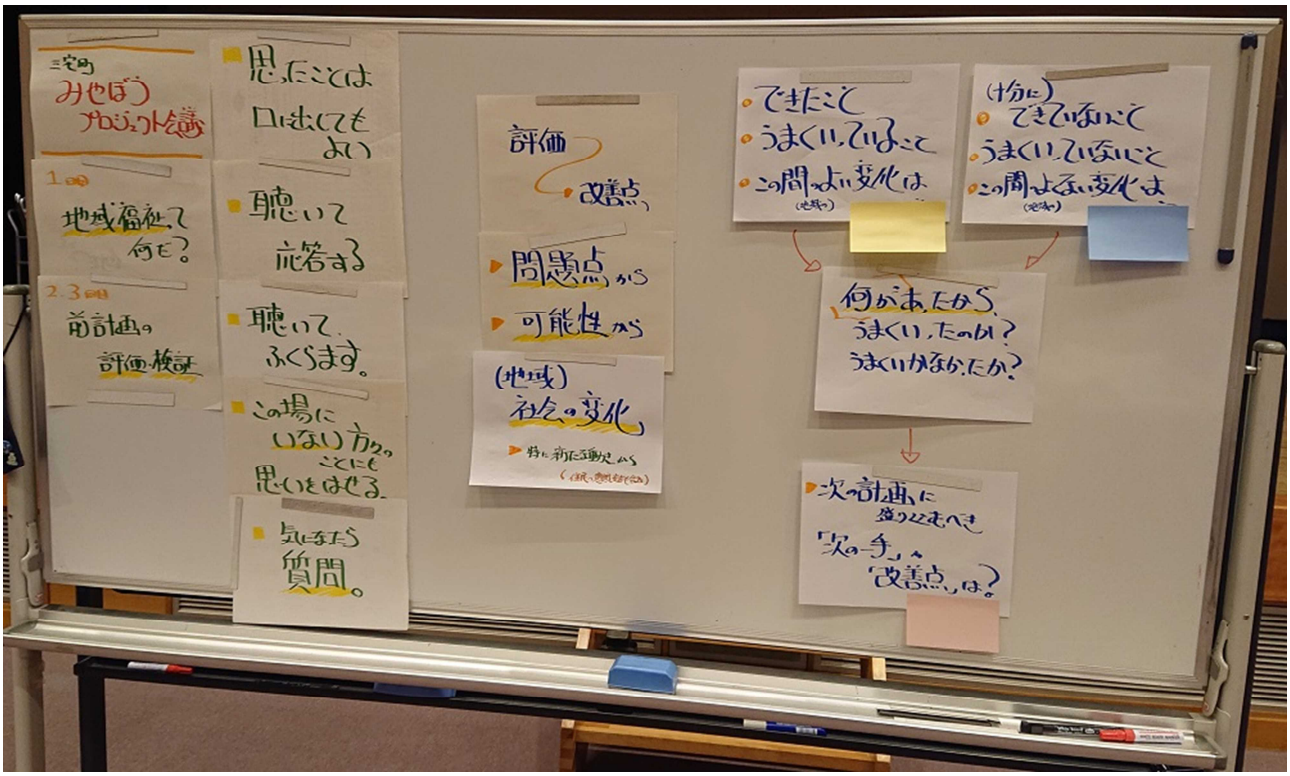
第２回会議は「第１期計画の検証・評価 Part１」をテーマに実施しました。第１期計画の基本目標Ⅰ「みんなが『関心をもつ』きっかけがあるまち」及び基本目標Ⅱ「みんながいきいきと『活躍できる』まち」について、グループ内で検証・評価を行いました。

資料の該当部分に目を通しながら、付箋紙に１項目１枚ずつ個人で記入した後、模造紙上でグループ共有を行いました。

記入事項（第２回・第３回共通）

記入事項	記入する付箋紙の色の区分	本報告書での区別マーク
できたこと うまくいっていること この間に起こった地域のよい変化	黄色	○
(十分に)できていないこと うまくいっていないこと この間に起こった地域のよくない変化	青色	△
次の計画に盛り込むべき「次の一手」「改善点」	ピンク色	★

川中先生の板書内容



基本目標Ⅰ みんなが『関心をもつ』きっかけがあるまち

Ａ班の記載内容

【中学生の参画】
〇町行事運営　中学生参加呼びかけ
〇中学校　町社会福祉協議会と連携しての取組　有難いです
〇式下中ＰＴＡはＰＴＣＡ＝地域とのつながりを想定してもらっている
（ＰＴＣＡは、ＰＴＡ活動にＣ＝コミュニティが加わったもの）
〇各種団体がコロナが過ぎて活動が活発になって来た
〇式下中学との連携
★現行の町行事を互いに協力し合って盛り上げる

【みやぼう活動の広報】
〇広報、社協だよりなどにより継続的な情報発信ができた
△みやぼうはどこにいる？
△若い人、働いてる人が参加しやすいものになっていないかも　イベント、講演会
△「みやぼる」あまり周知されてなかった
△ネットでの使い方が判らず使いこなせていない
△ホームページ教室は実施していない。関係団体が情報発信することが難しい。アプリ、ＳＮＳの活用も必要も
△みやぼう活動についての地域の方の理解度が低い
△求めている人に情報が届いている？そして参加しやすい？
★タイミングあった情報発信（タイムリー）
★みやぼうコーナー広報誌に作る
★若い世代にも関心もってもらうには広報だけでなくＳＮＳ発信などしていく
★みやぼうを学校園に招く

【交流の場】
△交流の場　ＭｉｉＭｏは遠い
△公民館的な場所、会場がない。ＭｉｉＭｏでは料金を含め使いづらい。
△コロナ禍以降町中で見かけなくなった人がいる

【子どもへの啓発】
〇中学生職業体験　三宅町受け入れ　多数の枠を設定
〇小・中学校において福祉に関する体験や職場体験などで思いやりの心や人権意識が育まれている
〇人権講座などの啓発活動
〇ボランティア活動を考えてくれる人が少しずつだが認知されつつある様に感じる
〇中学校での、忍性さんの生き方をモデルにする学び
〇三宅小学生との子ども達と障害者の交流

【障害者の製品販売】
〇あざさ苑の中にみそら屋さんがあり障害者の方と触れあえる
〇三宅町役場での障害者の製品販売
〇すずらん学級菜園活動　役場ロビーで販売

【その他】
〇三宅町で暮らし働く海外の方への理解
〇三宅の子ども達は元気な子が多い　あいさつなど
△地域の方の障害者への理解が不足している
△コロナによりＰＴＡの方との関係が少し変化した

Ｂ班の記載内容

【地域のよい変化】
〇たくさんの人々と出会えた、又いろいろな事を教えてもらえた
〇色々な団体からの呼び掛に参加出来て、人と知り合いになれた
〇１つ１つのイベントや行事取り組みが行われている
〇コロナ禍でもまちづくりの会、朝市はほぼ継続してやっていた
〇コロナ禍でもサロンはやった！（おかげ会館）
〇他地区の人たちもだんたんと来られる様になった
〇子どもの登下校時大人が居るだけで安心になります
〇子どもの集いや職場体験、学校支援ＶＯなど子どもへの様々な取り組みや支援がある
〇社協がやってくれたもちつき（よかった　世代をこえての交流をみた）

【地域のよくない変化】
△コロナ禍による活動の中止「集まるな！」密着×密集×密接×
△小学生、中学生等が気楽に集まれる空間がもっと増えてほしい
△みやぼう活動、みやぼるが広まっていない
△地域内の組織どうしの交流が出来ない
△町内のいろんな行事がバッティングすることが多々ある→情報共有できるといいなあ
△自分の趣味以外の取り組みについて知らないことが多い
△講演会、イベントの参加者がいつも同じ人が多い
△いろいろなイベントの周知が浸透していない、あったのを知らないことが多い
△前々から交流活動を行っている人からはＭｉｉＭｏの使い勝手が悪いとよくきく　なぜだろう？　受益者負担？　しきいがたかい
△天候に左右されて参加人数が減る

【次の一手】
★三宅町の人口が増えるアイデアがあるといいな
★ＭｉｉＭｏが子供中心の施設というイメージがついているが、高齢にも開かれていると思ってもらえるように
★世代間交流　子供会+元こども会　むかし遊び、火遊び、夜遊び
★コロナなどあったとしてもつながること、集まるアイデアを！（孤立はさける）
★車いすでの移動という身になったとしてもどんどん外へ出てゆける町に
★各イベント、事業は行われているので、それを集約して発信する機能があれば
★ＳＮＳの活用
★みやぼう活動とあえて呼ぶのか。ボランティアの方が理解　継続するなら、もっと町全体で広報する

Ｃ班の記載内容

【みやぼう活動の周知】
△「みやぼう活動」とか何ですかと住民には知られていない！！
△「みやぼう活動」ということばさえ知らない人がほとんどでは？
△「みやぼう活動」について聞いたことがない方が多いと思われる
△恥ずかしながら、担当課ですが…みやぼう活動という言葉を最近知りました
★「みやぼう活動」より「ボランティア活動」の方がなじみがあるのでは（ボランティア増）
★もっと「みやぼる」など広報又は案内文にどしどし言葉を入れる事

【講演会やイベント等の実施、周知】
〇精神保健福祉講座は会場に入りきらないほどたくさんの方におこしいただいた、関心が高いのだと思いました
〇ヤングケアラー、親なき後問題は支援者さんにも関心が高く研修会を実施しました
△講演会やイベント等の開催に対して結果はどうだったかの検証はされているのか？←同じことくり返しなのでないか
★結果や検証をきちんと広報する、広報のページを決めてならべる！など
★研修のみの案内ではなく説明（特集）などで気をひく！分かってもらう+研修記事

【As Mama アプリ】
△アプリ使いにくい→あきらめる人あり
△保護者会（幼児園）ではこの内容について話したことがなく共有もない、As Mama アプリについてはきいた
★As Mama の周知　保護者､高齢者などみんなで使い方イベント　参観日などみんなが集まるときに説明
★機械操作、アプリ　誰もが使いやすく！使い方を伝える場を！

【各種団体の活動】
〇地域住民の見守りで車通りの多いところなど安全に登下校できている
△登下校の見守りなどとてもありがたい！が高齢化
△各種団体の行動を知らないので、同じような活動になっているのでは
△色々な活動、行事があるのは良いが、個々にされているものが多く、情報が統一されていない（同じような内容 etc）
★良い活動でも他の人に知ってもらう発信が大切では
★行ってほしい事も伝えてほしいしその場所も必要

【その他】
〇「みやぼう活動」は浸透していないが、ボランティア活動をする人は多い（関心がある）
〇子どもたちが園で町探検を通していろいろな経験ができている

Ｄ班の記載内容

【小学校とのつながり】
〇コロナも５類となり小学校でも町探検など様々な学習が復活！
〇２／２（金）10～12時　３年生がＭｉｉＭｏにて革のイベントを企画
〇４年生　バリアフリーの学習　今度、ＭｉｉＭｏやあざさ苑を調べに行く予定
〇５年生　三宅の里芋の認知度アップに向けて探究活動を展開
△教育関連でどのようなとりくみがされているか知らないことが多い
△小学校の地域学習を地域にＰＲ、発信できていない
△地域から見て小学校と「つながっている」と感じてもらえているか？
△児童が企画するイベントの実施はできなかった
△ホームページ教室の実施がなかった
★R7 コミュニティ・スクール設置
★管理職の下校時の見回り回数を増やし、地域の方とつながる
★学校ＨＰで発信

【福祉教育】
〇大学生等による学習支援
〇学校支援ボランティアによる登下校の見守りや家庭科等の授業支援
〇「子どもの集い」を通して人権教育を実施
〇精神保健福祉講座等の様々な講座を開催
〇ボランティア活動は継続して行い、周知も図られている
〇小学校から見ると地域にとても助けていただいています
〇福祉教育学習の推進について推進状況を見て理解できた。幼、小、中がんばってとりくんでおられると感じました
〇式下中では先生方や地域の方々とＰＴＡで協力しながら、子供達のために活動できていると思います
〇福祉教育で子どもたちが福祉への関心や理解を深めていることがたのもしいです
△忍性さん　中学校で取組まれているが小学校では…

【みやぼう活動】
△「みやぼう活動」みやぼるの周知について　積極的に使えていない
△「みやぼう活動」「みやぼる」という呼称の普及ができなかった
△小学生の口から「みやぼる」聞いたことがない
△式下中では川西町の生徒は使えない
★「みやぼる」認知度ＵＰへの戦略必要
★２／１（木）全校集会で「みやぼる」投げかけてみよう
★「みやぼう活動」「みやぼる」という言葉の意味を周知し積極的に啓発、普及を行う
★ボランティア活動でいいのでは？　前回の策定時になぜそうなったか理解できない

【その他】
〇ＭｉｉＭｏに子どもたちが集まっている
〇講演会やイベントは広報誌に紹介されているのでわかりやすいと思う
△学校、ＰＴＡの配布物を活用したみやぼう活動等の周知ってありました？
△中学校のボランティア活動部は部員数が少なく、部員だけでは活動するのに少々しんどいところがある

基本目標Ⅱ みんながいきいきと『活躍できる』まち

Ａ班の記載内容

【中学生の参画】
★伝統行事の伝承（中学校）
★ものづくり体験　指導者いてくだされば（中学校）
★菜園活動協力呼びかけ（中学校）

【人材の確保】
〇海外人材の働く機会の創出
〇福祉人材確保に向けての全戸ポスティング
〇式下中学生職場体験の受け入れ
〇福祉人材センター紹介の職場体験
△リーダー研修の不足
△福祉、介護人材の不足、高齢化
△現在の活動者の高齢化　若い人たちの参入　人材確保
★雇用の創出　余暇を地域活動に！
★福祉職場から住民への働きかけを積極的に行う
★保育士資格所有者の掘り起こし

【地域活動の活性化】
〇地域でますます元気体操を通して、つどう場がある。高齢者のつながり、生きがいづくり、活躍の場
〇小地域ネットワーク活動が継続されている。新たな活動も発足している
〇地域団体の活動が多くなった。体操、清掃など
〇学童のみまもりなど地域での活動が見える
〇花苗植替活動（中学校）石見自治会のみなさまの協力に感謝
〇アプリ「マイコミュ」の活用など情報発信と人、物、事をつなぐ為に登録者を増やす
〇磯城郡地域自立支援協議会の活動が継続的にされている
〇町と連携して福祉専門研修を実施している
〇コンシェルジュを中心に子育て世代の交流の場がもたれている
△みやぼうの地域参加が少ない
★世代間の交流が各地域ごとにも活発化されると町全体の活性化になる
★様々な活動を知ってもらい、「参加してみたい」と思ってもらえるような情報発信や体験会を開く
★地域を知ってもらう活動（企業とも連携）フィールドワーク、バードウォッチング
★みやぼう活動研修の実施（住民向け講座）
★福祉施設との交流機会を増やすこと　まずは交流して出会うことから
〇★ふるさと回帰　地域愛

【その他】
〇広報でのＰＲ及びおり込みチラシでの告知が増えている
〇磯城地区保護司会あいさつ運動（月２回）（中学校）感謝！
△近所でもおつき合いが少ない人が増えてきた
△個人情報にこだわる人が多い
★三宅町内の団体が集まる場をつくって欲しい

Ｂ班の記載内容

【地域のよい変化】
〇町内にスーパーがなくなったので、親しい人たちでの買い物の仕方が良くなった。助け合いが増えた
〇身近に沢山のボランティアがありうれしい
〇町内のボランティア数が多い
〇社協の方々のがんばりがとてもうれしい
〇共働き家庭も多い中アプリや広報等の情報はありがたい。情報交換にもなる
〇地道にやってる活動に光を！　「伴堂のサロン」「まちづくりの会、ちょっとお手伝い、朝市」「石見おたすけ隊」など紹介
〇地域振興券のおかげで、助かり生活をすごせる時もある
〇助成金の種類が増え、活動しやすくなった

【地域のよくない変化】
△行事にもっと関心を持ってほしい
△共働だと平日参加はむずかしい
△頭では解っているが、体がついて来ない
△当日予約のない部屋は自由にかして
△月曜の祝日は休みでなく運営を　ＭｉｉＭｏ（あざさ苑も？）
△若い人へのバトンタッチが出来ていない
△リーダーをする人が限られ後継するのが大変　又、それを理由にしたがらない人もいる
△ボランティアランキングが出来なかった
△ボランティアポイントが出来なかった
△活動同士の連携が少ない
△福祉人材もそうだが役場、社協の人が少ない（有資格者も）

【次の一手】
★「年をとっても働きたい（100 才でも）」　100 才でもできる仕事をつくってくれー
★活動したくなる様な仕組みやメニュー作り
★学校給食を食べる機会があれば
★子供 vs 大人 e スポーツ対決
★おっちゃん先生塾「畑・野菜の栽培を教える」「ＤＩＹ大工道を作って〇〇を作る」
★大人の学校の開校　「介護保険」「相続」「終活」「一人くらしの人マッチング」
★活動の情報発信によるつながり作りや人材発掘
★活動同士の横のつながりの機会があれば
★福祉資格を得るための補助と要件の緩和

Ｃ班の記載内容

【福祉人材の確保】
△福祉サービス従事者の質の向上について、町として支援できることがわからない
△福祉人材について「やりがい」に頼りすぎ　働きやすく、給料もそこそこにしないと若者は働きにくい
△介護、福祉の事業所に人材育成を行うよゆうがない
★三宅町の福祉、介護事業所で働くメリットを作る　・住宅、家賃補助の充実・研修を安く受けられる　など
★福祉の人材確保のため町（や郡）としてできることを考えたい。研修だけでは不十分かも…

【ボランティアやイベントへの参加】
△仕事、家事、育児で企画や参加ができない（平日、土日に関わらず）
△利用したことがない方はどういうことをするのか、何をすればいいのか分からない
△リーダーになりたいと思う人少ないのでは。自分が言いだしたら「あなたがやれば」と言われてしまう！
△ひとりひとりは良い意見は持っているが、前に立って言うのは…「おくゆかしい」文化
★年齢を問わずどの世代でも参加できる（交流できる）企画の提案
★ボランティア次世代向きのイベント　「やりたい」と思ったときにすぐ始められる準備
★インターネット、ＬＩＮＥなどでさくっとボランティアの情報などにたどりつける「ＱＲコード」チラシにはりつける
★若者　どこからも情報とれる　情報ほしい⇔高齢者　どう情報発信してよいか分からない→情報発信の仕方をフォローしてほしい
★情報がみんな公平に行き渡るように！
★情報発信もっと！でも、発信する手段はどうすればいいのか…？フォローする必要がある

【ボランティアの高齢化】
〇ボランティアが高齢化する→高齢者の生活支援を行うボランティアが生まれる
〇ボランティアの活動が色々と多方面に渡っている
△ボランティア全体的に高齢化
△高齢者が多く又同じ方が色々な事をしている。次の方にどのように渡すか？
△町内でも地域によって行っている事がちがう
★同じ活動を長く続けることも大事⇔ニーズに応じて活動を変えていく勇気も必要

Ｄ班の記載内容

【各団体の活動】
〇用水路、寺社のそうじ　防犯のために夜に見回りや講習会
〇自治会の各団体でさまざまな活動がされている
〇見守り隊

【生活支援コーディネーター】
〇生活支援コーディネーターの方が積極的に地域の課題を話し合う場で活躍されている
〇生活支援コーディネーターの支援を得て、地域住民自らが新たに生活支援を行うボランティア活動が開始
★生活支援コーディネーターのような方が地区ごとに中心となれるような人材育成をし、生活課題をみんなでとりくめる仕組み作りが必要

【後継者不足】
〇ひまわりの家との交流再開（小学校）
△後継者不足
△「何をしたら…」「忙しいから…」よく出る意見ですね
★小学校での地域学習を通して将来の担い手を育成

【民生児童委員】
〇民生児童委員の認知度は少しずつ向上していると思われます
△民生児童委員の役割は大変です。地域に大きな影響を与えますよ。研修会などで資質の向上を　スキルアップ
★人材育成のための講座を開催し、戦力になれるように育成事業を行う

【その他】
〇高齢者地域活動推進補助金による地域活動の活性化を図ることができた
〇介護初任者研修の受講料補助を行い担い手の育成
△推進員の高齢化が進み、若い世代の加入をどう進めるか課題
△町内でどのような福祉事業が展開されているのか把握しにくい

第２回会議の様子（休憩時間に他班の模造紙を閲覧）

第３回　第１期計画の検証・評価Part２

第３回会議は「第１期計画の検証・評価 Part２」をテーマに実施しました。第１期計画の基本目標Ⅲ「みんなが『つながる』『支え合う』まち」及び基本目標Ⅳ「みんなに『届く』安心・安全なまち」について、グループ内で検証・評価を行いました。

資料の該当部分に目を通しながら、付箋紙に１項目１枚ずつ個人で記入した後、模造紙上でグループ共有を行いました。

基本目標Ⅲ みんなが『つながる』『支え合う』まち

Ａ班の記載内容

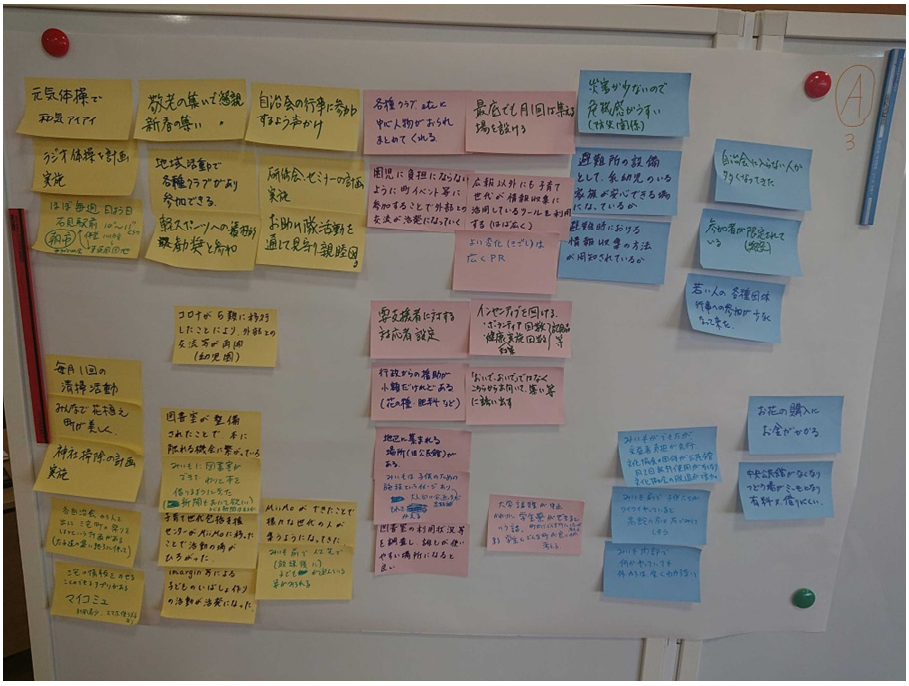
【地域のよい変化】
- 〇元気体操で和気あいあい
- 〇ラジオ体操を計画実施
- 〇ほぼ毎週日曜日、石見駅前で 10 時から 11 時くらいに朝市を実施
- 〇敬老の集いで懇親や新春の集いで懇親
- 〇自治会の行事に参加するよう声掛け
- 〇地域活動で各種クラブがあり参加できる
- 〇研修会、セミナーの計画実施。軽スポーツへの積極的勧奨と参加
- 〇自治会の行事に参加するよう声掛け
- 〇研修会、セミナーの計画実施
- 〇お助け隊活動を通して見守り親睦を図る
- 〇コロナが５類に移行したことにより、外部との交流などが再開
- 〇毎月１回の清掃活動
- 〇みんなで花植え町が美しく
- 〇神社掃除の計画実施
- 〇図書室が整備されたことで本に触れる機会に繋がっている
- 〇ＭｉｉＭｏに図書室ができて、わりと本を借りるようになった。（新聞も置いてほしい。こども新聞はあるが・・・）
- 〇各自治体から人を出して三宅町の祭りをしようという計画がある（太子道の集い終了に伴って）
- 〇子育て世代包括支援センターがＭｉｉＭｏに移ったことで活動の場が広がった
- 〇ＭｉｉＭｏができたことで、様々な世代の人が集うようになってきた
- 〇三宅の情報を載せることのできるアプリがある。（マイコミュ）　ただし利用者少なく、スマホを使う必要がある。
- 〇ｉｍａｒｇｉｎなどによる子どもの居場所作りの活動が活発になった
- 〇ＭｉｉＭｏ前の人工芝で放課後に子どもが遊んでいる姿が見られる

【地域のよくない変化】
- △災害が少ないので、危機感が薄い
- △防災関係避難所の設備として、乳幼児のいる家族が安心できる場になっているか
- △自治会に入らない人が多くなってきた
- △避難時における情報収集の方法が周知されているか
- △参加者が特定の人達に限定されている

△若い人の各種団体行事への参加が少なくなってきた
△ＭｉｉＭｏができたが、受益者負担が先行。文化協会の団体が公民館、月２回無料使用がなくなり、文化協会の脱退が増加。
△お花の購入にお金がかかる
△ＭｉｉＭｏ前で子供たちがワイワイやっていると、高齢の方は尻込みしてしまう
△中央公民館がなくなり集う場がＭｉｉＭｏになり、有料で借りにくい
△ＭｉｉＭｏ内部で何かやっていても、外からは全くわからない

【次の一手】
★各種クラブなどに中心人物がおられ、まとめてくれる
★最低でも、月１回は集える場所を設ける
★園児に負担にならないように町イベントなどに参加することで、外部との交流が活発になっていく
★広報以外にも、子育て世代が情報収集に活用しているツールを幅広く利用する
★良い変化、兆しは広くＰＲ
★要支援者に対する対応者設定
★インセンティブを設ける。ボランティア回数や健康対策実施回数に応じて記念品など
★花の種や肥料など、行政からの援助は少額だけれどある
★「おいで、おいで」と呼び込むだけではなく、こちらから出向いて集いなどに誘い出す
★地区に集まれる場所（旧公民館）がある
★ＭｉｉＭｏは子どものための施設というイメージがあり、大人向け企画を定期的にするなど変える
★図書室の利用状況などを調査し、誰もが使える場所を使いやすい場所になると良い
★大学誘致が中止となり、代わりに学生寮ができるという話。町内でどのようにしたいか考える。学生とどんな町がいいか考える。

模造紙の一例（Ａ班の基本目標Ⅲ）



Ｂ班の記載内容

【地域のよい変化】
〇高齢者限定になるかもしれないが、気になる人を様々な立場の人が見守る。そのための顔の見える関係作りを進めている。
〇見守り事業の協定に参画
〇防犯カメラの整備により、障害者の安否確認に繋がった
〇ＭｉｉＭｏにはいろんな世代が集まっているように思う
〇ＭｉｉＭｏの活用により出展などの機会が増えた
〇３年生、革のイベント
〇ＭｉｉＭｏで親子をよく見かける
〇複合施設での活動はだんだん多くなり、活発になっている
〇交通の安全を担ってくださる方が毎日頑張っておられる
〇高齢者中心の地域交流活動、趣味活動は盛ん
〇顔なじみの関係
〇児童の登下校の見守り
〇プール時の見守り。家庭科実習補助、地域住民のみやぼう活動

【地域のよくない変化】
△学校における子供と大人の交流の場
△みやぼう活動は・・・
△要配慮者情報は、名簿を管理していてもそれだけでは意味がない
△県、町、事業所が連携して実施予定の防災訓練がコロナで中止になった
△個別避難計画の策定率が低い。特に障害者
△子どもが集まる公園の整備
△様々な団体が交流できる場。どこかが主体にならなければ進まない
△なかなかボランティア活動に参加する人が少ない
△シェアコンシェルジュの活動があまり周知されていない
△多くの方々に何を行っているのかわかってもらえない
△活動の場はたくさんあるが、どれだけ知られている？　周知の難しさ
△コロナで他団体との交流の機会が減った
△活動は毎回同じ人が多いように思う

【次の一手】
★あざさ苑の改修計画に交流の場作りを取り入れていく
★令和７年コミュニティソーシャルワーカー設置
★地域人材の協力により、さらに魅力ある授業が展開
★行事などの企画運営に団体ボランティア、ボランティアも巻き込む
★みやぼうミーティング（団体横断会議）は実施すべき

Ｃ班の記載内容

【居場所について】
〇グループ自治会などの交流の場ができている
〇公民館など地域に根ざした場の活用がある
〇中学生の居場所づくりとして三宅町ユースセンターがスタート
〇限定した団体の役員のみが利用し、広がりがない
〇ＭｉｉＭｏができて様々な活動が広がりを見せている
△世代間交流にはなれず、同世代が集まることが多い
△ＭｉｉＭｏの活用を　もっと手軽にできると活動や利用が活性化すると思う
△役場や社協内における地域福祉に関する促進・啓発活動も必要
△みやぼうミーティングなどの団体横断会議や連携が不十分
★高齢者の移動手段が問題
★積極的に誘う友人がいない
★集まる場所や居場所がほしい
★ＭｉｉＭｏの活用について、使用目的によっては減免するなど、利用しやすいようにできれば
★町本庁と福祉部内とのより密接な連携を検討
★ＰＴＣＡ活動（ＰＴＡ活動にＣ＝コミュニティが加わったもの）からのＣ（コミュニティ）への協力依頼
★町単位や自治会単位でもっと話せる場所があれば

【情報について】
〇シェアリングアプリなど、新たな取り組みが進められている
△マッチングと言われても、高齢者には難しいし出来にくい
△アプリの活用についてもう少し広がりがあれば
△情報がわかりづらく、どこで誰が何をしているかを発信してほしい
△学校の教育内容についての広報
△情報提供がアウトプットのみで、インプットがみられない。どう意見を取り上げていくか。
△横の連携の進め方を具体的に検討する必要性を感じる
△情報の伝達があまり周知されていない。高齢者のパソコンや携帯活用ができていない
★アプリの活用について、高齢の方や苦手な方でも使える仕組みやフォロー体制
★情報はホームページやネットだけでなく、目で見えるようにしてほしい

【連携について】
〇子供の見守りが、朝夕見える
〇中学校時代の恩師が、朝２ヶ所で挨拶活動に取り組んでくださっている
〇保護司会や石見自治会フラワーチームとの連携
〇子どもの登下校時の見守り活動がある
〇交流学習活動が比較的できている
〇職場体験学習で、事業所の方に受け入れていただいた
〇特別支援学級菜園でできた作物の販売学習を、役場ロビーで行わせていただけた
〇町関係行事に、式下中学校ボランティア部の生徒に声をかけてくださった
〇地域における防災、防犯の取り組みが行われている
△地域の方を学校行事に招待すること
△災害支援連携準備がまだまだ不十分

△災害予防対策として自治活動のあり方を検討する必要がある

【全体的な改善点】
★計画の進捗や状況共有も含め、行政や住民、団体などの連携出来る仕組み
★援助や協力を求めている人のことを、思い浮かべること
★地域活動における支援（お金も含む）のバリエーションがあれば
★みやぼう　忍性さんを認知広める

第３回会議の様子

Ｄ班の記載内容

【地域のよい変化】
〇高齢者の活動が盛んになってきている気がします
〇社協から連絡を受けたり、連絡をしたり、密に連携できていると思う
〇公民館、いこいの家、あざさ苑＋ＭｉｉＭｏができた
〇ふれあい食堂の定期実施。自治会単位での試行
〇災害時、関係団体と要配慮者の情報共有が進んでいる
〇今のところ地域に対して気になることもなく、満足している日々を送れています
〇ＭｉｉＭｏに駄菓子屋さんがあり、子どもも喜んで外に出ることが増えています
〇町内で活動されている福祉団体、住民団体の活動に協力する体制ができている
〇地域における見守りや声かけ活動、自主防災会など、近所での繋がりがあることがありがたい
〇複合施設ＭｉｉＭｏは、様々な活動やイベントが開かれ交流の場になっている。ホールの活用はよく見えている。
〇ＭｉｉＭｏができて、以前より活気づいている気がします
〇防災訓練への参加が増えている？　各自治体で取り組みがある？
〇子育て支援グループ活動補助金があり、子育てサークル活動されている子育て世代の交流がＭｉｉＭｏやスマイルで開かれている。
〇過去担当課の事業から発生して、見守り隊がいろいろできている
〇それぞれの担当課で交流活動の支援をしている。例えば、高齢者地域活動の助成など

【地域のよくない変化】
△みやぼうミーティングできていない
△今活動されている方は活動できなくなった時、次世代への引きつぎ
△町内の団体には同じ方が活動されていることが多く、それぞれの活動を理解しやすいが、新たなメンバー加入など広がりが難しい面もあり、活動の存続ができるか
△地域福祉活動への支援や協力が十分でなかった
△各々の団体との連携はあるが協議体として全体的な連携の場がない
△大学の話がなくなった。違う話が出てきてはいるが
△利用者、利用されない人、分担されている？
△３階にあるスマイルは利用すると継続になると思うが、最初の一歩はわかりづらく入りにくい雰囲気を持つ人もいる
△災害時における連携体制について、具体的な整備がまだ十分ではない。避難所、災害ボランティア受入事務所、救護所など。建物をどう使うか
△通学路、人通りの多い箇所に防犯カメラの設置をもう少し増やしてほしい
△自主防災意識がまだ十分でなく、防災備蓄など自宅に準備ができている家庭はまだ少ない
△それぞれの担当課が広報誌に行事を載せているので、まとまってはいない
△町民の生活課題を相談できる窓口が細分化されたままでは

【次の一手】
★「みやぼうミーティング」は実際のところ、参加してくれる人がどれだけいるか？違う形を考えてもいいかも
★ＭｉｉＭｏも入口にスマイルのお部屋がどんなところかわかりやすい掲示をしてみる。子育て世代の目を引く、「ちょっと行ってみよう！」と思ってもらえるもの
★３ヶ月ほどの行事一覧が広報にあると、予定を立てやすい
★とりあえず何でも福祉のことを相談できる窓口があれば

基本目標Ⅳ みんなに『届く』安心・安全なまち

Ａ班の記載内容

【地域のよい変化】
〇１人住まい高齢者の自己申告による供与リストの作成（石見）
〇幼児園においてはコドモンを導入し、保護者への情報発信を行っている
〇防災無線の地域での活用
〇町の健康診断がある
〇不審者情報の共有化
〇子どもの虐待などについては、町内の様々な機関で情報共有を行い、対応について考えている
〇幼稚園に在籍していない子どもにもスマイルやひまわりの種を通じて園行事への参加を周知
〇夜間パトロールと青パトでのパトロールを実施
〇見守り活動（児童・老人）の充実の安全パトロール。登下校の見守り
〇各地域で地域の学童の見守りがある
〇町内の子育て世帯を対象とした支援を“スマイル”などで行っている
〇「お助け隊活動」による見守り、生活援助
〇通学時時間帯に必ず見守り隊の人がいる。（名札をつけて誰かわかるようにしては。ニックネームなど。）

【地域のよくない変化】
△共助リストの 119 番や 110 番との連携システムの構築が出来ていない（町行政が動かない）
△見守り隊の高齢化
△高齢化に伴う補充がうまくいかない
△高齢になったときの移動問題
△農協前交差点は急に道が狭くなっている。通学路もあるため何とかならないか

【次の一手】
★警察への巡回強化のお願い
★あいさつ合戦。一人だけ遅れて学校へ行く子どもを時々見る。挨拶したく、おはようと言いたい。大体同じ子。
★安心は、「知っている」「見たことある」という繋がりから
★災害時の避難所情報の共有。あっちこっちに載っている情報として欲しい
★買い物や通院等の移動を一緒にする

Ｂ班の記載内容

【地域のよい変化】
〇みんなが集まれる場所ができた
〇相談を複数人で共有できると、顔の見える関係になる。コンパクトな三宅町だからできること
〇地域包括支援センターが相談窓口として周知されている
〇子ども相談窓口の一元化
〇社協の日常生活自立支援事業を活用

【地域のよくない変化】
△情報発信の難しさ。興味がない。後回しにしたいというような情報をどう伝えるか。例えば、権利擁護、ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング＝人生の最終段階で受けるケアの事前プランニング)、認知症についてなど
△高齢者の交通の便をもっと考えてほしい
△町内歩道、特に三宅小学校南側のバリアフリー整備
△ＭｉｉＭｏを活用する人たちは、子どもと若い大人が多いが、高齢者が少ない
△相談できる広場は、ＭｉｉＭｏだけで良い？　場所よりも「人」。ＭｉｉＭｏに相談に来た時に「〇〇さんのところに行ったらいいよ」と案内できると良い

【次の一手】
★成年後見制度、町長申立制度の利用促進
★タクシーは相乗りをすすめよう
★様々な立場の者が話し合いをする場が必要。これがみやぼうミーティング？
★複合課題への対応。分野横断は小さい町だからこそできる！　複合課題への対応ができる人材の育成＋多職種での関わり

Ｃ班の記載内容

【子どもについて】
〇子どもの学習支援や居場所への取り組みがある
〇ＣＯＣＯＡ（子どもの「心と学び」サポート事業)、継続的な取り組み
〇きめ細やかな虐待対応についての連携
〇中学校へのＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）派遣
★この取り組みが平成２０年くらいにあれば、式下中学校にエレベーターが設置されていた可能性がある

【防犯について】
〇町内巡視活動が夏も冬も長く行われている
△巡視で活動していただく方は年々少なくなっている
△地域差はできているのでは・・・
★照明や街の灯り　明るい街に！

【相談について】
△相談窓口の明確化。案内がわかりにくい。
★相談窓口の利用はどの程度か？　その内容は？　専門家を置くべきと考える
★やるべき事業が多すぎる。ボランティアに来る人をどう研修するか。移動や買い物支援が必要な支え合い体制ができてほしい

【支え合いについて】
〇買い物支援
〇シェアリングによる買い物支援活動がある
★移動や買い物支援が必要
★支え合い体制が出来てほしい

【情報について】
△ＳＮＳや情報発信が足りない。または周知、利用が不十分。
★情報が多すぎる。必要な情報をどう受け取れるか。高齢者が理解できるようにするにはなど
★自治会掲示板の利用方法手続きについて教えてください

Ｄ班の記載内容

【地域のよい変化】
〇タクシー券は、高齢者の方は移動によく使われている。移動支援の一つとして成立している
〇自治会館などで出前型相談窓口が展開されている
〇広報誌などの紙媒体の効果は、三宅町は効果大
〇どこに相談していいかわからない→どこかに相談したら適切なところに繋いでくれる
〇生活の困り事を相談できる窓口がたくさんある

【地域のよくない変化】
△ゴミの分別表でゴミの種類をわかりやすく工夫してほしい
△若い人はＳＮＳなど器用。おじいちゃん、おばあちゃんはパソコン、スマホを持っていない
△相談を受ける側、異動して人も変わる。人によって能力が違う
△役場組織再編により、業務窓口が変更されていても、十分に住民に周知されていない
△２年経ってもわからず旧窓口に来られる方が多い。
△横断歩道がないところがあり、安心して通れる道路整備が改善されていない気がする
△相談事の情報共有の場がない。相談者の個別対応として止まっていないか。

【次の一手】
★相談窓口を一本化できれば理想だけど、窓口がいっぱいあって、どこかに引っかかったらいいんじゃない？
★研修の場を充実
★総合相談対応に向けて体制整備
★包括的支援体制を整備

第３回会議の様子

結果の総括

１ グループワークの内容の総括

基本目標Ⅰ

基本目標Ⅰは、「啓発・広報活動の推進」や「福祉教育・学習の推進」についての目標です。

「小・中学校において、福祉に関する体験や職場体験などで、思いやりの心や人権意識が育まれている」など、「福祉教育・学習の推進」については、よくできているという意見が多数あがりました。一方、「啓発・広報活動の推進」においては、「みやぼう活動」「みやぼる」といった言葉は「積極的に使えていない」ものの、「ボランティア活動は継続して行い、周知も図られている」といった意見が複数あがりました。

「次の一手」「改善点」としては、各グループともに、更なる情報発信や交流を進めることをあげていました。

基本目標Ⅱ

基本目標Ⅱは、「地域福祉を推進する人材の育成・支援」や「福祉・介護人材の確保・定着」についての目標です。

「地域福祉を推進する人材の育成・支援」については、「リーダーをする人が限られ後継するのが大変」など、人材育成に課題があるという評価がみられました。「福祉・介護人材の確保・定着」については、「『やりがい』に頼りすぎており、働きやすく、給料もそこそこにしないと若者は働きにくい」といった制度改革の課題が意見としてあげられました。

「次の一手」「改善点」としては、「生活支援コーディネーターのような方が地区ごとに中心となれるような人材育成をし、生活課題をみんなでとりくめる仕組み作りが必要」、「保育士資格所有者の掘り起こし」、「福祉資格を得るための補助と要件の緩和」など、具体的な提案が複数みられました。

基本目標Ⅲ

基本目標Ⅲは、「集い、つながる場の整備と活用」、「見守り、支え合う関係づくり」、「地域福祉を支える関係機関や団体との連携」、「全庁的な体制の整備」の４項目についての目標です。

「三宅町交流まちづくりセンター ＭｉｉＭｏ」については、「ＭｉｉＭｏができて様々な活動が広がりを見せている」など、肯定的な意見が多くあがる一方、利用者の費用負担への言及もみられました。

また、「連携」や「支え合い」、「体制」について、「各々の団体との連携はあるが協議体として全体的な連携な場がない」、「災害時における連携体制について、具体的な整備がまだ十分ではない」などの課題が多くあがりました。

「次の一手」「改善点」としては、「『おいで、おいで』と呼び込むだけではなく、こちらから出向いて集いなどに誘い出す」といったアウトリーチ活動の推進や、「大学誘致が中止となり、代わりに学生寮ができるという話。町内でどのようにしたいか考える。学生とどんな町がいいか考える」といった県の今後の施策との連携についての意見があがりました。

基本目標Ⅳ

基本目標Ⅳは、「情報提供の充実」、「包括的な相談・支援体制の充実」、「地域生活を支えるサービスの充実」、「分野横断的な支援体制づくり」、「権利擁護の推進」、「合理的配慮の推進」の６項目についての目標です。

「包括的な相談・支援体制の充実」や「分野横断的な支援体制づくり」では、「相談事の情報共有の場がない。相談者の個別対応として止まっていないか」といった課題があげられ、「相談を複数人で共有できると、顔の見える関係になる。コンパクトな三宅町だからできること」という期待の声が寄せられました。

「地域生活を支えるサービスの充実」や「権利擁護の推進」、「合理的配慮の推進」では、「社協の日常生活自立支援事業の活用」など制度的な福祉の充実に関する意見が複数あがったほか、「情報発信の難しさ。興味がない。後回しにしたいというような情報をどう伝えるか。例えば、権利擁護、ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング＝人生の最終段階で受けるケアの事前プランニング）、認知症についてなど」という問題提起がありました。

「次の一手」「改善点」としては、「複合課題への対応ができる人材の育成＋多職種での関わり」、「様々な立場の者が話し合いをする場が必要。これがみやぼうミーティング？」など、施策の方向性に関する総括的なまとめを行った班もみられました。

２ 川中先生の講評（第３回会議）

話はつきないですけど、予定されている時間が来ました。

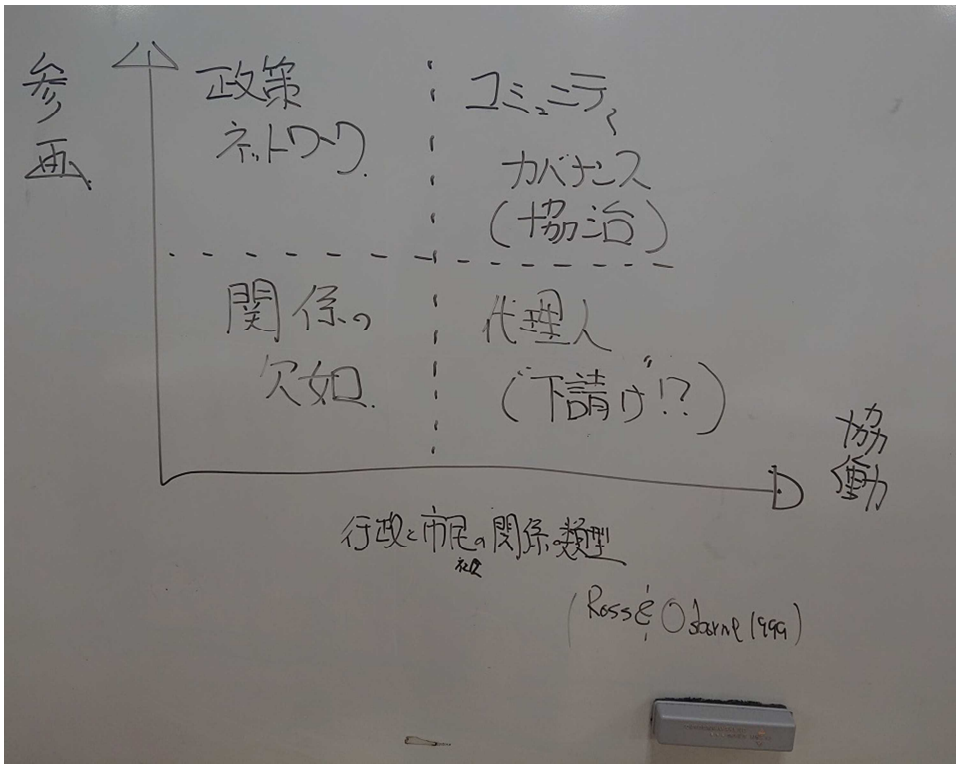
計画を作る時にこうした住民参加の集まりを行うことはよくありますが、検証・評価の時に行うことは、実はあまりありません。それができることが三宅町のよさだと思います。

皆さんのご意見を聴いた私の感想としては、学校教育と福祉との結びつきが良くなっていってる、すごく努力をされてるということを感じました。また、ＭｉｉＭｏは、可能性は感じるけど、まだ、かゆいところには手が届かない存在、という印象でした。次の計画でかゆいところに手が届くようになると、きっと、面白い展開になると思います。同時に、担い手が増えないことがやはり課題で、旧来の組織がどういうふうにこれから動いていかれるのか、ということも、関心を持って聴かせていただきました。

こうした住民の意見を政策に生かしていこうという取り組みは、「参画」と呼ばれます。1990 年代以降、行政が聞く耳を持たないという批判も受けて、「参画」の取り組みが広がっていきました。図の縦軸です。

そして、ここにきて、人口減少・高齢化によって、行政に対して意見だけを言って、行政が何でもできるという時代ではなくなってきています。「入り」よりも「出」が多くなる中で、言うだけではなくて、「一緒にやろう」という「協働」という概念が生まれてきました。

この「参画」と「協働」ですが、「参画」だけが強いと、政策を行うのに、みんなのいろんな意見聞きましたよ、というところにとどまってしまいます。「協働」だけが強いと、行政の代わりにやってください、という下請け的なものになってしまいます。

そこで、みんなで声を出して力を出す、「協治」、英語でいうコミュニティガバナンスをめざしていくことが必要です。次の計画でも、そんなまちづくりを展開していただければと思います。

川中先生の板書内容